

## 第12回'99トライアスロンIN徳之島参戦記

7月4日の'99トライアスロンIN徳之島（以下、徳之島TA）に参加するため、7月2日から5日の日程で、初めて徳之島を訪れた。

### 7月2日（金）

福岡を12時発の飛行機で出発した。まずは鹿児島島に13時前に到着。空港内のレストランで昼食をとり14時発の徳之島行きに乗り換えた。同じ飛行機に宮塚選手、藤原選手、今井選手、古代さんらも乗っている。彼らを見るといよいよレースだと気持ちが高ぶる。

15時に徳之島に到着。出迎えていたホームステイ先の上田さんの車に乗り、エントリー受付場所のB&G海洋センターに着く。選手登録後さっそくあらかじめ到着していた輪行袋を車に積み上田宅に向かう。着いたところは小さな自動車の整備工場。袋からバイクを取り出してセッティングする。すでに同宿の人が数人到着しており、彼らも同様に忙しそうにセッティングしている。部屋に行くと手作りのブタ料理、島ドーナツ等が用意されており食べると非常においしかった。

ヨナマビーチで行われたウェルカムパーティーでもブタ料理で出た。ビーチから眺める夕日も最高。これらの体験が出来ただけでも徳之島へ行ったかいがあったものだ。

### 7月3日（土）

6時起床。暑さで目が覚める。食事をした後しばらくして、スイムコースを試泳するためスイムスタートのヨナマビーチへ向かう。

すでに数人、ビーチにいた。ウエットスーツなしでの試泳だったがすごく気持ちがよい。本コースに入るまでの約200mくらい泳いだが途中、サンゴがきれい。小さな熱帯魚も泳いでいた。本コースの先の折り返しのブイがはるか向こうに見える。途中まで泳ぎ引き返すが帰りは波に乗って泳ぐことが出来るので非常に楽。明日もこの状態になって欲しいと願う。

次にバイクコースを車で一周した。とにかくアップダウンの連続である。そして、上田宅に戻り休憩をする。その後、徳之島在住で同郷でもあるルリスズメさんと合流し、午後2時から二人で島の闘牛大会を見にいった。取り組みが下位から横綱級まで10数組ある。徳之島といえば、宇和島（愛媛県）、隠岐（島根県）に並び闘牛が非常に盛んで、横綱戦となると徳之島中の話題になるほど熱狂的になるものである。

試合は角と角を突き合わせて頭をぶつけ合い、どちらかが戦意喪失（尻尾を向けて離れたほうが負け）で勝負が決まる。同じ取り組みが10分以上かかると少し飽きてくる。自分の牛を勝たせるため奇声を発しながら足をばんばん踏み鳴らしたり牛をたたいたりして交代で牛に気合を入れている。「セコ」という中には試合中に牛の角が折れるというアクシデントが起り、その牛を応援した子供が本気で悔しがっていたのが今でも脳裏に残る。

闘牛場を後にして次にランコースを一周する。こちらもアップダウンの連続である。

3種目全てのコースを下見した感想はいずれも今まで自分が経験したことがないようなコース形態でなおかつハードである。果たして明日、無事に完走できるだろうか？そんな一抹の不安を抱きながら上田宅に戻り明日の準備をする。

7月4日（日）

5時ころに起床。5時半頃朝食をすませて、ヨナマビーチへ向かう。バイクで5分位で到着。天気は快晴。海の状態もよくほとんど波がない。

到着するやいなや体中に日焼け止めクリーム塗りたくる。特に九州以南ではくもりの日でも日焼け止めクリームは必需品である。そして、ウエットスーツを着て入水チェックをする。

ウォーミングアップで少し海を泳ぐが水温も昨日と同様、適温で申し分なし。緊張した状態でスタート時間を待つ。

### ●スイム（2KM）

徳之島TAのスイムコースは片道1kmの折り返しコースである。したがってレース中スタートして完泳するまで一度も陸に上がれない。しかも足が届かない場所も結構ある。今まで自分が出たレースといえば大抵周回コースで一度、陸に上がって再び泳ぐのがほとんどだった。さて、どんなレース展開になるのだろうか？

朝8時、スイムスタート。海のコンディションはもう言うことなしで大きなプールに泳いでいるようだ。サングラスもきれい。

スタート後しばらくしてバトルに遭う。レース中ずっとバトルに悩まされる。コースの真ん中を泳いでも自分のペースで泳ぐことが出来ない。また、前の人が平泳ぎで泳がれる（以外と速い）と交わそうにも交わしにくかったのでそれも困った。500人近くが一斉に泳ぐでバトルに遭うのは当然のことだが、特に大レースでは距離が長くなるのを覚悟の上でコースの外側を泳ぐのが得策かもしれない。

そしてすぐに折り返し点を通過した。時計を見ると目標タイムより速かったのでまずまずである。ところがそれからが大変。昨日と潮の流れが逆になったようだ。うねりもある。泳ぐのに時間がかかる。次第に海水で喉と鼻がヒリヒリする。早くスイムを終えたいと思いながらなんとか陸にあがる。

スイムラップ 48:18（完走者 422 人中 368 位）

### ●バイク（90KM）

ウエットスーツを脱ぎ、再び、手足に日焼け止めクリームを塗り、トランジションを出る。すると、いきなり上り坂。バイクのギアを軽くしたもののうまくダッシュが利かずあわや立ちゴケしそうになる。コースに入るとすぐに噂通りのアップダウンの連続だ。途中で急坂、急カーブもある。平地がほとんどない。昨日、下見したよりずっとハードに感じる。なかには谷型の坂もある。

ここは最近、シドニーオリンピックの女子マラソンの金メダリストが徳之島で合宿をした時の練習コースにもなり「尚子ロード」と名づけられたそうである。

1周目は結構、楽しく乗った。ちょうど、大会の2ヶ月前の連休にバイクで対馬縦断をする特訓をしたのでその成果が出てきた。周りの景色もよかった。

このころから気温が高くなり暑く感じる。しかし沿道の人たちが絶えずナベや太鼓で応援してくれる。エイドもいろんな飲み物や食べ物が豊富に取りそろえている。しかし2周目では疲れが目に見えたのか同じ坂を上るのもスピードが落ちる。日焼けも一層、体中を感じる。このころが一番暑い。あとで聞いた話だがこのころ最高気温が38度あったそうだ。去年の玄海大会を思い出すようなレースである。

残り10KMを過ぎるとすでにランを行っている選手と数人すれ違う。そこで彼らと自分のレベルの差を感じてしまう。

バイクラップ 4:01:17（完走者 422 人中 344 位）

## ●ラン（21KM）

スイム会場のヨナマビーチとは違うB&G海洋センターとなりのバイクゴールからランスタート。

ランではソックスを履かないと足がすれるのでゆっくりとソックスを履く。そして、あらかじめ用意した大福もちを食べてスタートする。

スタートをしてしばらくの間、ペースダウンした前の選手を次々とパスしていく。ここでもエイドは数多くありバイクより一層、飲み物や食べ物が豊富に取りそろえている。沿道の人たちがホースを選手に向けて水をかけてくれるのでそれがまた気持ちがいい。

10KMを過ぎると当たり一面はサトウキビ畑であり、しばらくするときれいな海岸が見える。やがてしばらくの間、小雨がぱらつく。ちょうど体調が悪くなりかけたときであったのでこれがぼくにとってまさに恵みの雨となる。その頃にエイドでカキ氷を口にするとシロップがうまく、体も少し冷えるのでうれしい。

さすがに残り5KMになるとペースダウンをし、脚が重くなる。ちょうど、フルマラソンでいえば35KMを過ぎた頃の状態だ。

それでもゴール2kmくらい手前で時計を見てこのペースならなんとか7時間以内にゴールできそうだと思った。ところが競技場の入り口を抜けたあと、トラックに入ってから長かった。生バンドの出迎えの中、栄光のフィニッシュ！ルリスズメさんも祝福してくれたので思わず涙が出そうになった。

ランラップ 2:12:16（完走者 422 人中 151 位）

総合 7 時間 01 分 51 秒（273 位）

年代別 26 位（20-29）

## 7月5日（月）

早朝から大雨がふり雨音も激しい、それに加えて近所で飼っているニワトリの鳴き声で目が覚める。起きあがって部屋の中を歩くと脚が筋肉痛の嵐だ。昨日のレースの激しさを物語っている。朝食後、バイクを分解し輪行袋にパッキングする。それを車に積みB&G海洋センターへ行き、家まで宅配するように手続きをする。

それからしばらくして、車で島の北東の部分にある、畦プリンスビーチへ行きそこで海水浴をする。しばらく泳ぎ、海中に潜るとあたり一面は珊瑚礁でいっぱいである。ここでも熱帯魚も泳いでいる。ヨナマビーチよりもっときれいな場所である。海岸では島の天然記念物であるオオヤドカリの大群も見られる。

まさにここは「南国の楽園」である。ここに来て、「トライアスリートになってよかった」「トレーニングを続けてよかった」と思った。

ビーチを後にして、上田宅に戻る途中、今大会の優勝者である田村選手とすれ違う。なんと大会翌日でもバイクであの急坂を登っているのだ。レースの翌日から気持ちをハワイアイアンマンに向けて頑張っている。（それにしてもすごいパワーだ）

上田宅で着替え等残りの荷造りをし、空港へ行きおみやげを買い、15時45分徳之島へ離れる。その後、鹿児島で福岡行きに乗り換え帰宅する。

夢のような4日間があつというまに終わった。

徳之島TAはトライアスロンの専門誌「トライアスロンジャパン」でおすすめレース第3位にランクされていた。その記事を読み、実際にいくと非常に納得するものだった。ちなみに福岡から徳之島までの旅費は全てで9万くらいかかったがそれだけのお金を費やす価値は十分にある。また、機会があればぜひ挑戦したいと思う。

## レース後の感想

初めての挑戦でなおかつキャリアが短いので酷暑の中完走できただけでも御の字である。スイムとランはそれぞれ目標タイムを越えたのでよかった。欲をいえば総合7時間を切りたかった。しかしバイクで時間がかかったので今後、もう少しロングライドをしなければならない。

## 今後の目標

これで今年は主要トラレースの出場予定は無いので、基礎体力作りに専念したいと思う。来年は今までのショート走に加えてロング走も挑戦したいと思う。

そうなるとう最後のフルマラソンで苦戦するだろうが、それまで十分にトレーニングを積み、再び「トライアスリートになってよかった」と思える大会にしたいものだ。

おわり